

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の 編集にあたって

城 和貴^{1,a)}

どうすれば論文が採録されるのかという質問をよく受けます。これは簡単でして、投稿する論文誌の採録方針に沿った論文を投稿すればいいだけです。簡単なようで、よく把握していない方が多いようです。たとえばTOMの場合、数理モデルに関連する何らかの手法を提案する論文を主な対象とするのですが、提案手法に新規性があるかどうかポイントになります。この新規性を主張するには関連研究が十分に調べられていることが求められます。提案手法に新規性がない場合でも、その手法をある分野で適用した結果、すごく効率良いことが実証できれば、これも採録することができます。もちろん、十分な実験と結果の分析が必要です。これがTOMの判定基準の基礎になるわけですが、TOMには普通の論文以外に事例紹介論文というカテゴリーもあり、既存手法を既存応用分野に適用して新規性や有用性が乏しくても、ケーススタディとしてTOM読者に有益な情報を与えると判断された場合は採録することができます。他にもシステム開発論文やサーベイ論文というカテゴリーもあります。TOMに投稿する前に論文カテゴリーの相談には喜んで対応させていただきますので、TOM編集委員会までお気軽にお問い合わせください。

さて、2012年度三回目のTOMの発刊です。今号では、2010年3月開催のMPS77（伊豆高原ルネッサ赤沢）ならびに2011年5月開催のMPS83（岡山県立大学）に初投稿して何度かの再投稿を経て採録された論文が2編、2012年3月開催のMPS87（指宿市）に投稿されて採録された論文が3編、同年5月のMPS88（名古屋大学）に投稿されて採録された論文が6編、同年9月のMPS90（小樽）に投稿されて採録された論文が7編の合計17編を掲載しており、15編のオリジナル論文と2編の事例紹介論文となっています。TOM35の採録論文数/投稿論文数は17/30で、採択率は57%となっており、担当編集委員は安藤晋、尹熙元、池田大輔、榎原博之、北栄輔、北上始、木谷友哉、栗原聡、小林聡、佐山弘樹、城和貴、高田司郎、高間康史、田原康之、西野哲朗、古谷博史、堀田一弘、堀井宏祐、宮崎浩一、山内

由紀子、吉川大弘、吉本潤一郎、渡邊真也（敬称略）となっています。

TOMに掲載される論文はコンピュータサイエンスの境界領域を含む非常に広範囲なものになっています。そのため広い分野に対応できるように多くの編集委員を必要としています。これまで慢性的に編集委員が不足している状態です。TOMでは編集委員を常時募集していますので、自薦・他薦を問わず興味のある方は城(joe@ics.nara-wu.ac.jp)までご一報ください。

本論文誌の配布はオンライン版のみとなっています。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、MPS研究会および論文誌TOMに関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

¹ 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
奈良女子大学
Nara Women's University, Nara 630-8506, Japan

a) joe@ics.nara-wu.ac.jp